

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102810		
法人名	株式会社ウェルフェアシステム		
事業所名	グループホームハイブリッジ		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1-11-10 (電話) 028-688-5181		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年6月19日	評価確定日	平成19年8月7日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当グループホーム職員は、入居者第一と考え、ゆったりとした環境の中で、それぞれが自分らしい時間を過ごせる「家」をつくっていくために柔軟な介護を目指すことを大切にしている。また、入居者と楽しく暮らしたい、一人ひとりの思いを感じとる努力をする、安全の中でその人らしく日々楽しく、明日に続く良いことをみつけよう、「ありがとう」の言葉をいつも言うことを目標としている。そのような職員と病院や介護施設で認知症介護の経験を積んだ気さくな管理者が入居者の日々の生活を支援している。ホームは大きな道路から入った住宅地に位置している。アパートの多い地域であり近隣の子どもたちが定期的に遊びに来てくれる。地主（オーナー）所有の「地域交流センター」がホームの前にある。センターは百人収容可能であり、地域の方たちとの交流やイベント開催時に使用し、共に楽しむ拠点となっている。その他にも、月に3回入居者中心の調理の日と、ボランティアの交流が楽しみごととなっている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>職員間の話し合いの機会が増え、連携が取れてきた。入居者の言動を生活記録によくまとめる様になった。施設に関しては、現状維持である。市町村との関りは、運営推進会議の開催が予定されており、共にサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>今回の自己評価は、各フロアの職員に意見を聞き各フロア長がまとめ、最終的に管理者が目を通した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>運営推進会議は、3ヶ月に1回開催することとしているが、参加者の日程の調整がつかず、実施に至っていない。メンバーは、本部・自治会・ホーム・入居者・家族を考えている。平日の午後2~4時の開催を予定している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>管理者・職員は、家族の面会時に挨拶をし、意見を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。過去に苦情が届いたとき、本人・他の職員にも伝え、家族に謝罪した例がある。家族会を設置している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>近所の子どもたちに自由に遊びに来てもらい、また3~4名の小学生が月に2回放課後にホームに遊びに来ている。自治会に入会し、餅つき・祭り・運動会などに参加している。「地域交流センター」がホームの前であり、バンド演奏やカラオケ、クリスマス会などのイベントを通して、地域の交流の拠点になっている。</p>

【情報提供票より】（平成19年6月7日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	7 人	常勤4人(兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算6.5人	
	7 人	常勤4人, 非常勤3人, 常勤換算7人	
	7 人	常勤4人(兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代 1,000円 ・おむつ代 オムツ1枚@105円 パット1枚@ 31円 <p>【※いずれも利用した場合】</p>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		685 円	

(4) 利用者の概要(平成19年6月7日現在)

利用者人数	25 名	男性	4 名	女性	21 名
要介護1	6 名	要介護2	11 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	3 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口クリニック
---------	---------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のことを第一に考え、入居者の意見を聞くようにしている。職員教育でもそのことを周知している。地域との結びつきを重視し、地域のボランティアや近隣の方と交流している。2丁目のユニットの事務所に、入居者との関わり方や目標等が掲示されていた。	○	「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービス」として、職員とともに検討して、日々実践している取り組みを具体化し、地域との関係について事業所独自の理念を分かりやすい言葉でつくりあげていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者のことを第一に考えての支援について、職員間で話し合っている。帰宅願望の強い入居者には、駄目という否定の言葉を使わないよう徹底している。職員は、ゆったりとした環境の中で、入居者が自分らしい時間を過ごせる「家」をつかっていくために、柔軟な介護を目指し日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所子どもたちに遊びに来てもらい、また3～4名の小学生が月に2回放課後にホームに遊びに来ている。開設時に内覧会を行い地域の方たちにホームを見ていただいた。自治会に入会し、餅つき、祭り、運動会などの交流の機会がある。地主（オーナー）所有の「地域交流センター」がホームの前にあり、地域の方たちやホームの入居者との交流の拠点ともなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、各ユニットのフロア長が職員の意見を参考にしてまとめ、最終的に管理者が目を通した。前回からの変化は、職員間の話し合いの機会が増えて連携が取れてきたこと、入居者の言動を生活記録によくまとめるようになったことなどがある。日勤・早出・夜勤の職員がそれぞれの時間帯の記録をしている。	○	運営推進会議で外部評価結果を公表し、そこでの意見・助言なども参考にホームとして職員全員でサービスの更なる向上に取り組んでいくことを期待したい。また、母体の会社の協力も得ながら毎年の評価を具体的な改善につなげていくことを期待したい。

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催することとしているが、参加者の日程の調整がつかず、実施に至っていない。メンバーは、本部・自治会・ホーム・入居者・家族を考えている。平日の午後2～4時の開催を予定している。	○	ホームの現状や生活状況等を報告し、評価への取り組み状況について話し合いを行い、その意見をサービスの向上に活かすよう、できるだけ早期の開催を期待したい。また、市の職員や地域包括支援センター職員の参加を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の変更届や入居者状況の報告をしている。認定調査で要介護度が低くなった入居者の家族から不満が出たときには市へ橋渡しをした。介護教室等の受託はない。地域密着型サービスになっても市と繋がる印象はうすく、介護相談員の派遣は3年目になるが、改善につながっている所は少ない。	○	市の広報誌等で市の事業を把握したり、ホーム側で市にアピールする等、積極的に市と連携をとりながら、また市の担当者の参加も依頼しながら運営推進会議を開催することにより、市とともに地域密着型サービスとしてのサービスの質の更なる向上のための取り組みを進めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	A4版一枚に管理者が手書きで「日常生活について、管理者より、来月の予定、お知らせ」等を書き、預り金の出納状況と領収書、ホーム便りを同封し、家族内のキーパーソンに送付して報告している。家族の訪問状況は月1回の家族が3分の1で、年数回の家族もいる。職員の異動については、フロア長から面会時に家族に報告している。	○	訪問機会の少ない家族もいることから、職員の異動等に関してお便りやホーム便りに加えることの検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に職員は挨拶をし、意見を言っただけのような雰囲気づくりに努めている。過去、夜勤者の言動に苦情が届いたとき、本人に伝え、職員にも伝え、家族に謝罪した。少ないが、家族から意見や苦情がある時は、会議などで検討のうえ運営に反映させている。家族会の設置はある。	○	今後も家族同士の集まりの場で、自由に意見を出せるような雰囲気づくりに努め、意見・要望・苦情があった時にはその発生要因を探り、課題を検討し、更にホームが良くなるための質の向上を目指す取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は年1回程度実施しており、家族にはフロア長が報告している。職員は、開設当初いた7名中2名が残っている。ユニットの職員は固定しているが、異動がある場合には前もって移動先のユニットを手伝い、入居者との馴染みの関係が作りやすくなるように配慮している。新しい職員には、3ユニットを1ヶ月間ずつ経験してもらい、入居者に紹介している。	○	離職に関して、職員が生き生き働けるよう認知症ケアの良さを共有したり、職員の働きがいを継続していけるような方策を会社側と検討されることを期待したい。

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	茨城県から看護師とリハビリ関係者を招くなど内部研修を活発に行っていたが、会社の事情で研修会の開催が減った現状がある。外部研修会には、随時参加しているが、全員が全ての研修に参加することは難しい現状がある。研修報告は、全フロアに回覧し確認印を押している。	○	ホーム管理者の上司であるエリアマネージャーとも相談しながら、以前活発であった内部研修会の再開を検討することを期待したい。計画的な内外研修の受講の機会を増やすなど、職員を育てる取り組みの更なる充実を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、近隣のホーム職員と知り合いの関係にあり、電話で連絡を取り、情報交換などを行っている。栃木県グループホーム協会に入会している。空き情報の交換などで、老人保健施設や特別養護老人ホーム職員との交流もある。	○	エリアマネージャーとも相談しながら近隣のホームなどとの連携を深めていくことを期待したい。また、協会主催の研修会に参加したり、市内の複数の同業者とも交流する機会を持った相互訪問等の活動を検討したりしながら、サービスの向上を図っていく取り組みを進めていくことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学は、本人・家族に来ていただいている。また、管理者が家庭訪問をしている。入居してからホームに馴染むまで、個人差はあるが2週間から1ヶ月である。家族の面会時間を設定しているが、入居して安定するまでは、いつでも訪問していただいている。家族が帰る時は、後を追われないよう、そっと帰るようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は、一緒に料理、裁縫、洗濯物干し・取り込み、折り紙、カラオケ等のレクリエーションを行っている。1丁目の入居者は、車椅子の方も含め、食事の準備、片づけ、食器洗いをほとんどの方が行っている。プランターで赤かぶやインゲンの栽培を行い、植木の水やりは男性の入居者が喜んで行っている。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に情報収集した生活歴や、介護計画作成時のアセスメントや普段の関わりから、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握するようにしている。明確に意向を伝えられない方については、普段の行動や表情からくみ取るようにしている。管理者は、全フロアを回り本人の思いや希望を聞くようにしている。入居者の希望で、トマト農家を訪ねたり、少し離れた場所まで水菜を取りに行くこともある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族と話し合いをもっているが、長い年月の中で「お任せします」と言われ、関りが少なくなっている現状もある。各フロアの担当職員が、計画作成担当者と話し合い、月1回のミーティングで話し合い、最終的に常勤のケアマネジャーが介護計画を作成している。月1回、店屋物を取り、会議時間を作り出している。	○	介護計画への関りが少なくなっている家族などに関して、本人を良く知る家族や関係者の参画が重要であることを伝えながら、意見や要望、気づきなどを出していただきながら本人本位の介護計画を充実していけるよう、引き続き取り組んでいくことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、3ヶ月に1回の見直しと、介護保険の認定期間終了時に合わせて見直しを行っている。入居者に変化が生じた時は、ケアマネジャーが家族と管理者に相談し、現状に即した新たな介護計画を作成している。ホーム全体の会議は月1回であり、ユニット毎の会議は2～3回開催している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関は距離的に離れているが、月2回の往診や薬の処方に対応してもらっている。希望があれば他の医療機関の通院介助をしている。日常的には、日用品の購入は入居者と共に職員が行っている。		

グループホームハイブリッジ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医をもっている方も、毎回の受診が大変なこともあり協力医に変わる方が多い。在宅医療をしてもらえる医師を協力医療機関にしている。医師とは気軽に相談できる関係にあり、往診時に家族が同席することもある。24時間の電話での対応は可能であり、緊急時は電話で指示をもらえる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの関係資料の中に、会社が示す看取りに関する指針があるが、管理者の意向として看取りはできないと考えている。ホームでの対応は要介護3・4までで、寝たきりになると難しいのでその前に家族に連絡をし、他の施設などに移れるよう配慮している。会社の方針との相違がみられる。本人や家族との話し合いは大切にし、緊急時の対応は行っている。	○	看取りについて、入居者・家族が会社の方針とホームの考えのくい違いに困惑することが考えられるので、会社の方針・ホームの考えの一致に向けた早急な話し合いが期待される。また、「入居者を第一に」を大切にしていることから、重度化してもホームに住み続けたいという希望があったときの対応についても検討しておくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、入居者に対して、常に人生の先輩であることを念頭に、言葉づかいにも一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう対応し、入居者が触れて欲しくないことには触れないようにしている。失禁のときは、居室か浴室にさりげなく誘導して対応している。記録等の個人情報は、プライバシーの確保に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者の一人ひとりのペースを尊重し、ゆっくりでも自分でできることは自分でしていただくことを大切にしている。居室の掃除は各個人にお願いし、必要に応じて声かけをしている。5時頃に起きる方が多く、朝食はまちまちに食べることが多い。入浴は週2～3回の方が多。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、職員と入居者は共に準備・食事づくり・後片付けを行っている。委託先の栄養士が献立をつくり、野菜・肉・魚の食材の搬入は毎日、ホームでは買い出しはしていない。ホーム全体の献立は同じであるが、フロア毎に調理方法(サラダ・和え物・お浸し等)を工夫している。月3回、入居者中心の調理の日がある。入居間もない帰宅願望の強い方に、食事の準備・片づけに参加していただき落ち着くこともある。検食は、3フロアで1人で、その他の職員は弁当を持参している。	○	職員は、300円支払えば入居者と同じ物を食べられる様になっているが、一人のみが検食で弁当を同じ食卓で食べている。同じ物を楽しく食べるということを前向きに検討していくことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望に合わせて毎日～週2・3回の方が多。いつでも入れるようにしているが、午前中を希望する方が多い。夜は面倒と言う方が多いが、希望があれば添いたいと考えている。拒否する方には、「お風呂を手伝って」と誘導したり、爪を切ってあげると声をかけたりしながら、徐々に衣服を脱いで入浴していただくなどの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、張り合いや喜びのある生活が送れるよう、植木の好きな方にはプランターや鉢植えの水やり、食事づくり、片付け、レクリエーション・カラオケなどの場面をつくっている。地域交流センターでの、日舞・民舞・年3回のバンド演奏・敬老会・母の日・クリスマス会も楽しみごとになっている。	○	入居者が生まれて現在までどう生きてきたか、何を大切にしているか等、可能な範囲で生活歴の情報を得、一人ひとりにあった楽しみや役割が見つけられるよう、場面づくりや出番を見出せるような支援が期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にスーパーに買い物に出掛け、30分位かけて近くの運動公園に散歩に出掛けている。車椅子で行く方もいる。車の都合で、ホーム全員で遠出は出来ないが、フロア毎に真岡・栃木・大平山・鹿沼のアジサイなどを見に行くことがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者・家族に説明のうえ、一部の入居者の安全を考え、玄関は暗証番号で施錠している。窓は20cmは空くようになっているが、ベランダには出られない。靴箱が玄関にあるが利用は少ない。施錠しても不意に外出されたことがあった。帰宅願望の強い方とは、職員と一緒に外を歩くこともある。	○	玄関に鍵をかけることに過信せず、入居者が外に出なくなる理由や場面や行き先などを知り、一人ひとりの外出の傾向を把握し、近隣の方にも理解を求め協力していただくよう働きかけるなどの取り組みの充実に期待したい。また、取り組みの結果として鍵をかけなくてもすむような環境がつけられていくことを期待したい。

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一昨年は消防署に来てもらい避難訓練をしたが、昨年は実施していない。今年は秋に実施を予定している。災害時の対応マニュアルがある。消防署との直通連絡システムを取り入れている。	○	近隣者や地域のボランティアとの関わり、開催を予定している運営推進会議の中で、災害時に地域の方たちの協力が得られるような関係づくりを進めていくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託先の栄養士が献立をたて、栄養バランスに配慮しており、入居者の状態に応じてキザミやお粥など提供形態を変更している。水分は1日1,200ccを目安に、各食事毎、おやつ時、入浴後などに提供している。食事毎に個人の摂取量を記録している。	○	ホームではおおよその1日のカロリーは把握している。今後更に定期的に委託先の栄養士から情報を得たり、連携を図ることなども期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である玄関や居間などに、職員が自宅で育てた季節の花が飾られ、装飾も入居者手づくりの季節を感じさせるものを飾り、テレビの音の大きさに気を配り、日差しはカーテンなどで調節している。2階は天窓があり明るい、廊下は入居者が消してしまうと暗かった。夜間は、廊下・トイレは灯りをつけている。居間のソファや椅子で過ごす方が多い。	○	入居者の安全に配慮するためにも、灯りが消えていて暗いところへの移動時には、気配り・目配りを行い、必要に応じて支援することを期待したい。また、居心地のよい空間づくりに関して、入居者・家族・近所の方・外来者・介護相談員などに感想や気づきを常に聞きながら空間づくりをしていくことが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスはホーム側が用意し、ベッドと寝具はリースである。タンスやテレビやコタツがあったり、家族の写真が飾られ、入居者自身で作った作品を飾っている。今のところ量の希望者はいないが、希望があったときに対応できるよう用意している。家庭の事情で持ち込みが少ない方もいる。	○	事情で持ち込みが少ない方に関して、入居者の意向を確認しながら、馴染みのものを活かすなどして、その人らしい居室づくりを職員と一緒に取り組むことも期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。